令和元年度第２回下水道運営審議会　会議録

〔事 務 局〕　下水道経営課

〔開催日時〕　令和２年２月１３日（木曜日）午後２時～午後３時２０分

〔開催場所〕　伊勢原市終末処理場２階　会議室

〔出 席 者〕　（敬称略）
（委　員）安藤忠勝会長、橋場誠二副会長、石田操、笠原俊男、栗原誠人、
佐藤義一、竹内裕子、田村貴寿、西村賢一、萩原忠夫
（欠　席）牧野克子、松原沙織
（事務局）石塚俊彦下水道担当部長、芦川友広参事兼下水道整備課長、
杉崎友則下水道施設担当課長　外３名

〔公開可否〕　公開

〔傍聴者数〕　０人

《審議の経過》
１　開　会
２　議　事
（１）平成３０年度下水道事業特別会計の決算状況について
以上の内容について、事務局から資料に沿って説明が行われた。
【質疑応答】
（委　員）　歳入、歳出をみると結局は借金をしている。
（事務局）　特別会計は予算の組み方で歳入、歳出を同額としている。決算では１００％執行するわけではないので、歳出より歳入が多くなる。歳入には借金も入っているが、管渠は整備すれば５０年間利用でき、将来世代の方々にも利用いただくための世代間の公平性の観点からも悪いことではない。しかしながら、資本費平準化債についてはどのように減らしていくかが課題であり、残高の縮減に向けて努力していく。
（委　員）平成３０年度決算は赤字なのか。また、基準外繰入金は入れているのか。
（事務局）特別会計で官庁会計であり、歳入が歳出を上回っていることを考えれば黒字である。繰入金の中には基準外繰入金もある。例えば、減免など政策的な判断によるものや起債の償還金など賄えきれない経費は基準外繰入金により賄っている。

（２）公共下水道全体計画の見直しについて
以上の内容について、事務局から資料に沿って説明が行われた。
【質疑応答】
（委　員）　全体計画の見直しでは利用効率を考えると面積の削減はやむを得ないと考える。一人当たりの汚水量の原単位も下がるので処理場の能力も変わるのか。
（事務局）　計画では４系列８池あるが、現在の３系列６池だけで足りる形となるため、今後増設の必要は無くなる。
（委　員）　計画面積の縮減により、費用的にも縮減されるのか。
（事務局）　来年度予定している経営戦略は全体計画の縮減を考慮して策定する。
（委　員）　地震対策は何か行っているのか。
（事務局）　幹線管渠の地震対策として、管路とマンホールの接続部分

に可とう化の対策をしている。また、東大竹ポンプ場からの圧送管ルートのネットワーク化として、別ルートによる圧送管の整備をしている。建物の耐震構造については、耐震化されていない箇所について調査を進めている。

３　その他

４　閉会